

## contents

性教育学再興……………	1	今月のブックガイド……………	9
北丸雄二のニューヨークレポート⑩……………	7	JASEインフォメーション……………	10
「ありのままのわたしを生きる」ために⑩……………	8		

## 性教育学再興

福岡県立大学教授・附属研究所長（性教育学者） 松浦 賢長

## 性教育実践と学問の不在

性教育にはその裏打ちとなる学問がなかった。

これは多くが一致する見方である。性教育の実践を支える学問の不在は、時には実践が流行に大きく左右される状況をつくり出し、また時には“カリスマ”に影響される状況をつくり出してきた。

さらには、学校における性教育が、政治的闘争の場となることさえあった。それは今振り返れば、子どもたちにおける性の課題がピークとなっていた西暦2000年前後のことであった。現場の教師たちの多くが、何か確たるものを欲しはじめていた。

“混乱”ともいえる上記の状況のなか、全国の若手研究者たちが性教育学構築のために財団法人日本性教育協会等に集いはじめた。本稿は、性教育学の再興を目指した全国の若手研究者たちとの5年以上の長きにわたる議論から、わたしなりに導き出した思索の軌跡である。

## 過去の検証

性教育を学問にしていこうという取組は、過去に存在していた。それは昭和47年前後のことである。

昭和47年は、日本性教育協会が設立された年であった。この設立には、海外における種々の団体（例：SIECUS）の取組が参考にされたという。

当時、設立に携わった先達は、毎月テーマを組み、学術的な論文・レビューや啓発的論述を雑誌（ジャーナル）形態にて発行していった。それらの雑誌を見ると、いまでも当時の熱気が伝わってくる。性教育を学問として展開していくという、その熱い思いが溢れていた時代であった。それはわが国における性教育学勃興の時期である。

だが、この熱気はいつの間にか大樹になることなく潰え、その後何十年にもわたる学問不在の実践時代にとってかわられていくことになった。

## 即席の「学」

「約40年前の性教育学勃興の熱気を引き継いでいく」。これが性教育学再興を合い言葉として集った若手研究者の総意となった。

まずわたしたちが議論したのは、学問とは何かということであった。この議論は長期に及んだ。

たしかに、「性教育」という言葉に、単に「学」を追加すれば、「性教育学」という言葉はとりあえず

きあがる。これは性教育に限らない。たとえば、「ボランティア」「学」でも可能であるし、「地域貢献」「学」でも可能である。このような例は、大学の新設科目や、公開講座テーマではしばしば見られるところではある。

わたしたちの目指したのは、このような即席の「学」ではなかった。

### 学問の下流域からみた見取り図

わたしたちが問うたのは、学問とは何かということであった。

その学問とは、世界基準でいえば西洋にはじまるものである。わたしたちが、現在学問とみなしているものは、一部の例外を除き、ほぼ西洋に起点をもつものであり、その意味でわたしたちは、学問の下流域に学んでいることになる。まずここを共通理解した。

下流域に学ぶわたしたちが、果たして上流を見ることができのだろうか。つまり、学問の全体像を世界基準で把握することができるのだろうか。このような問題意識をもとに、西洋の学問について深く掘り下げ議論した結果、意外なことが明らかとなった。世界基準でいえば、学問の種類はそれほど多くはないということであった。上記のボランティア学ではないが、自称「学問」は多けれど、周りから学問とみなされているものはそれほど多くはないということであった。

当初、わたしたちが描いた世界基準における学問の大きな見取り図は図1である。

まずは知に関する学問がある。これは Philosophy (哲学) である。つぎに人文学がある。これは Humanities である。そして法学と医学がある。これらはどれも長い歴史をもつ。

わたしたち現代人が現在、もっとも影響を受けているのが新しい学問であるところの Science である。西周により「科学」と訳されているが、ここでは Science のままで記述していくことにする。

### 学問における最も大きな対立

実は図1には、最も影響力のある学問が描かれていない。その学問は、わたしたちが最も慎重に議論した学問であった。図2にその学問である「神学」の位置を示す。

神学と激しく対立するのが Science である。この対

図1 世界基準における学問の見取り図①

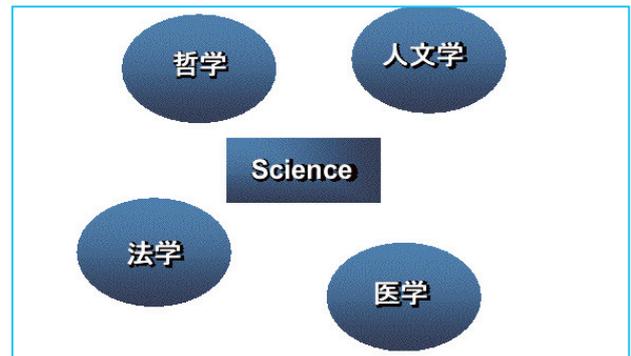
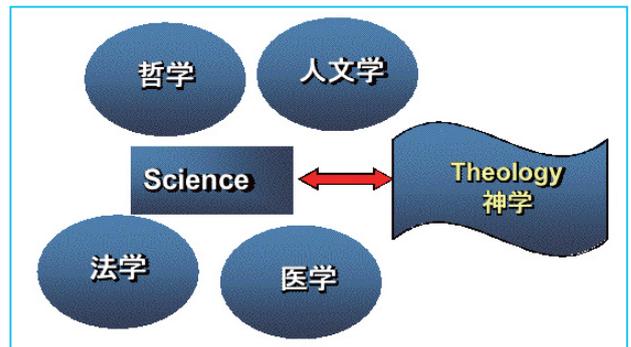


図2 世界基準における学問の見取り図②



立は、知における最大の対立といってよい。それは突き詰めれば、Ontology (神の存在証明)、この1点となり、論理的に決着がつくことになる。とくに Science の中でも、最大の理論といわれる進化理論 Evolution Theory がこの対立に果たす役割は限りなく大きい。

この見取り図は、わたしたちの議論を長らく紛糾させた。この紛糾の後遺症はいまだに存在しているが、この過程はわたしたちにある洞察をもたらした。

それは、性教育「学」が、少しでも Science に依拠する部分があるとするならば、多かれ少なかれ Theology、すなわち宗教的価値観（とくにキリスト教）との相剋は避けられないということである。

一方でたとえば性教育「学」が人文に依拠する部分があり、それが神学と対立することがあるならば、どうであろうか。これは白黒の決着をつけられる性質の対立とはならず、おそらく相対的な扱いで済むことになるだろう。人間の存在が相対的であるように。

ちなみに、これらの見取り図の大部分であるが、知の巨人であるアリストテレスとトマス・アキナスがその基礎を作ったとみなされている。

### 性教育「学」が依拠するところ

上記の見取り図において、性教育「学」が依拠するところはどこであるべきか。次にわたしたちの議論は

その点に移っていった。

結論はシンプルなものであった。前記見取り図のどのパーツ（学問）にも関連する、依拠するというものであった。

では、主たる軸足はどこにおけばよいのか。

それは長い歴史をもつ Philosophy なのか、Humanities なのか、あるいは新興学問の Science なのか。

まずは Philosophy（哲学）を構成する学問を図3に示す。これを見る限り、性教育「学」が主として依拠すべきところではないという結論になる。

では次に世界基準で Humanities とみなされているところの学問を図4にあらわす。ここに教育学が含まれている。性教育「学」が主として依拠する学問の一候補となるだろう。

さらに Science を構成する学問を図5に示す。ここでは、生物学ならびに行動学問（アメリカ生まれの Science）が含まれており、こちらも性教育「学」が主として依拠する候補となるといった。

ちなみに行動学問をさらに展開してみる（図6）。

これらはいわゆる Social Science といってよい。

## Humanities と Science

性教育「学」は、融合領域の学問であることに異論はないにせよ、主としてどこに軸足を置くのか。この議論と思索も長引くことになった。

性に関する（健康）課題の解決を、性教育実践の目的にするならば、人間の行動変容を扱う行動学問、すなわち science に軸足を置くべきであろう。また、人間の生き方（個人、カップル、集団）として性をどのように考えていくべきか、文化や歴史の影響をどのように考えていくのか等の観点から、未来への架け橋を築くということを目的にするならば、それはまさしく Humanities の領域になるだろう。

ここでわたしたちは、自らが辿ってきた教育課程の影響に向き合うことになる。わたしたちの多くは、仮説検証をもとにエビデンスベースで世の見方（理論・モデル等）を構成していく science のほうが、人文学 Humanities よりも数段上の学問であるという見方を有していた。もちろんそれは刷り込みである。

## Humanities における性教育学

性教育「学」は、文字通り「性」教育学である。上

図3



図4



図5

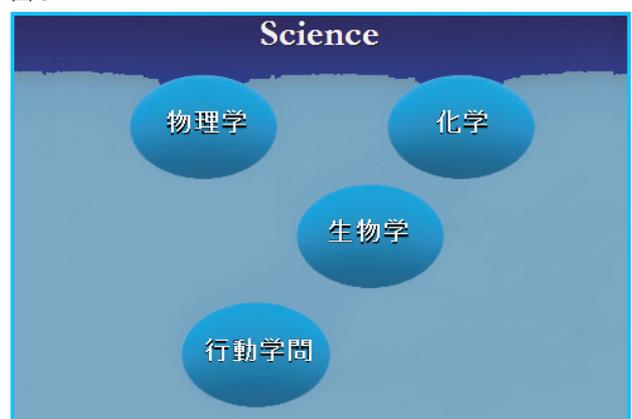


図6



記の刷り込みを内省し、わたしたちは、性教育「学」の主軸を Humanities に置くことにした。行動変容に関する実践のニーズにも応えるべく、Science に依拠することはもちろんのことではあるが。

さて、ここで改めて問いが出てくる。

そもそも、性教育学とはどうある“べき”なのか。

## 海図と羅針盤

学問の見取り図のどこに主軸を置くのかという議論と並行して行われた議論は、性教育学とはどうあるべきかということであった。

性教育は実践の場において、いくつかの対立に巻き込まれている現状にあった。まずわたしたちは、しばしば政治的闘争まで行き着いてしまうこの対立構造を把握することにした。ただし、これらの対立構造を決して否定的にとらえていたわけではない。これらの対立構造をもとにした学術的議論は、学問を進めていくうえで重要であるとの認識に立っていた。

いくつかの対立構造を示す。

- ① ヒト 対 人間
- ② 個人 対 関係 (or 世代 or 集団)
- ③ 現実 対 理念
- ④ 近代 対 前近代
- ⑤ 現在 対 時間

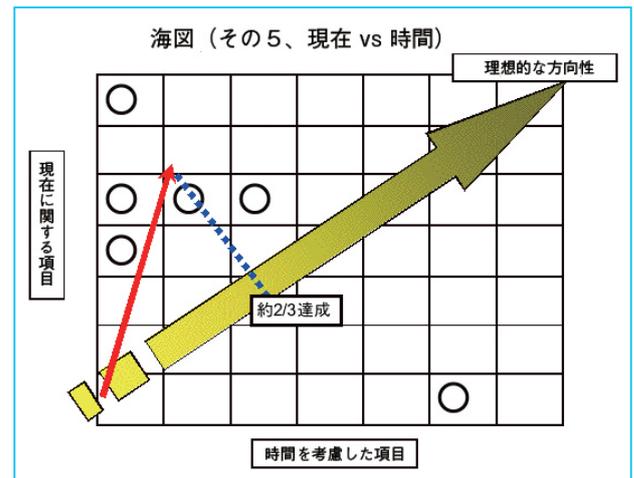
性教育実践をめぐる対立のほとんどは、上記の①から⑤の対立構造を受けたものになっている。

わたしたちは、まずこれらの対立構造を2次元マトリックスに展開し、性教育実践者が自らの実践の位置や性格を知るべきだと考えた。これを「海図」と呼ぶことにした。1つのマトリックス例を示す(図7)。

⑤現在対時間の対立構造を例にとったマトリックスであるが、自らの実践がどこに位置するのかを○印でプロットする(図7では6回)。理想的な方向性は、現在に関する視点と、時間を考慮した視点のどちらもバランスよくある方向性ということで、黄色の矢印で示してある。上記例では、実践は現在に関する項目に偏っており、自らの実践や仲間との実践において、今後は時間を考慮した視点を有した展開をしていけばよいことがわかるように工夫されている。

次にこの対立構造5つをもとに、一別できるパラシュート型グラフを開発した(図8)。

図7



これらから、自らの実践がどこを重点化していくべきかを一瞥にて把握できるようにしたこのパラシュート型グラフを「羅針盤」と呼ぶことにした。そして、これら5つの対立構造それぞれに、「知る」「分かち合う」「支える」「伝える」「育む」の上位概念を設定した。

そしてこれらの上位概念を基に、たとえば大学における授業科目の内容を構成することができるのではないかという期待もそこに生じるようになった。

## 「海図」と「羅針盤」から派生した大学授業科目

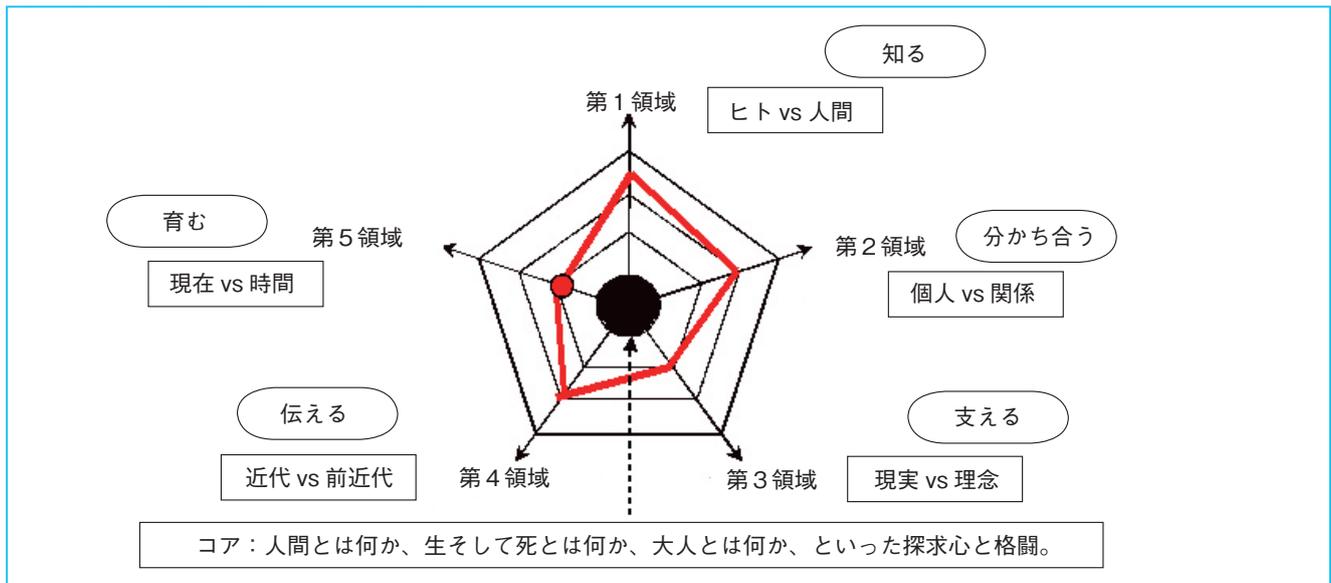
「性教育学はどうあるべきか」という問いから、上述したように、5つの上位概念を導き出すことができた。それは、大学の授業科目「性教育学」を展開する際の材料にしようという試みにつながっていった。

全国の大学で、性に関する授業科目は少なくはないが、こと「性教育学」という授業科目で展開されている例はほとんど存在しない。いわば、大学レベルで性教育について学んだ“専門的”職業人はほとんど存在しないということである。

わたしたちの今回の性教育学再興の取組は、同時に、大学レベルで性教育学を修めて、実践に活用できる専門的職業人を育てる試みでもあった。

大学授業科目「性教育学」というものは、どのようにプランされるのか。大学では1つの授業科目につき15回の授業が求められる。そこでわたしたちは、約20章の内容を用意し、大学教師がそれらから自分の教える専門的職業人の特性にあわせて15章を取捨選択できるような、ある程度自由度の高い授業材料をゼロから構築することにした。

図8 総合型“羅針盤”(パラシュート型)



現時点における大学授業科目「性教育学」の授業材料（テキスト）は次ページ表の通りである。

なお、上記授業材料（教科書）を用いた大学授業科目は、平成24年度から福岡県立大学において開講が決定しており、そこでは、看護師、助産師、保健師、中学校教諭、養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、臨床心理士といった専門的職業人を目指す学生の受講が予定されている。

### メタ理論を見つめる

先述の「海図」と「羅針盤」、及び大学授業科目の材料は、「性教育学とはどうあるべきか」という“べき”論から出発したことを述べた。これらはいわば大学研究者の机上からの出発であった。

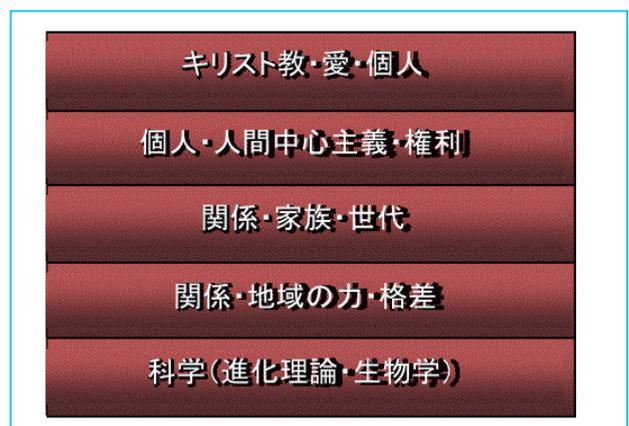
わたしたちの考える道筋は、そこまでは少なくとも「机上」から「実践」へというルートしかなかった。これを大学生に教授することはできたとしても、現場で性教育を実践している人々に果たして受け入れられるのか。

そこにおける議論で導き出されたのは、性教育実践におけるメタ理論の混在であり、シンプルなくつかの対立構造が基底をなしているわけではないということであった。

混在するメタ理論を図9に示す。

ここから言えることは、性教育実践は極めて複雑な絡みの中にあり、シンプルな理論で規定できるものではないという“現実”であった。

図9 メタ理論の混在



性教育学は、性教育実践とともにある学問であることは間違いのないことである。その原点に立ち返れば、わたしたちが通ってきたルート、すなわち「机上」から「実践」へというルートは、後半部分を示しているに過ぎないことに気づかざるを得なかった。

性教育学は、「実践」から「机上」へ、そしてまた「実践」へというルートをとることが望ましいということである。わたしたちは、最初の到達点に近づきつつあった。

### 性教育学とは何か

最も根源的な問いである「性教育学とは何か」の答えが出たようだ。それは、「性教育とは何かを問うていく学問」ということにある。簡単に言えば、行われている実践を分析していき、性教育という人間の営みについて少しでも理解していくことである。

表 性教育学（基盤編）

I. 性をふりかえる	6.1 男性外性器の解剖と生理	10.4 攻撃性	15.3 性的虐待・DV・デートレイプ
第1章 性教育の歴史	6.2 勃起・射精のメカニズム	10.5 性的魅力	15.4 対策
1.1 「性」の語意と「性教育」の登場	6.3 生殖機能に影響を与えるもの	第11章 性行動と環境	第16章 性の支援
1.2 性教育の制度史	6.4 快楽	11.1 性行動を早める・遅くする環境	16.1 障害児の性
1.3 自慰	第7章 女性の身体	11.2 レジリエンス	16.2 受診行動
1.4 性感染症	7.1 解剖生理	11.3 感覚と性行動	16.3 助けを求める行動の支援
1.5 男女交際	7.2 月経周期	第12章 多様な性行動・性表現	第17章 性と医療
第2章 性の民俗	7.3 ボディイメージ	12.1 小児性愛	17.1 お産と医療
2.1 村社会の性	7.4 生殖機能に影響を与えるもの	12.2 サディズム・マゾヒズム	17.2 生殖補助医療
2.2 性の伝承	7.5 快	12.3 フェティシズム・異性装	17.3 出生前診断
2.3 お祭りと性	第8章 妊娠・出産と避妊	IV. 性を共有する	VI. 性を広げる
2.4 性の民俗の変遷	8.1 妊娠の機序（性交含む）	第13章 性と人間関係	第18章 性に関する国際的動向
2.5 海外からみた日本の性の民俗	8.2 出産の仕組み	13.1 人間関係の発達	18.1 リプロダクティブ・ライツ・ヘルス
第3章 性と文学	8.3 若年・高齢妊娠	13.2 家庭における性の扱い	18.2 セクシャルヘルス
3.1 男女交際	8.4 避妊法とその効果	13.3 メディアと出会い	18.3 包括的性教育
3.2 同性愛	8.5 人工妊娠中絶	第14章 性と社会	18.4 プロチョイス・プロライフ
II. 性を知る	第9章 STD / STI	14.1 性と道徳	第19章 性に関する尺度
第4章 性とは何か	9.1 性感染症の種類	14.2 性規範の歴史	19.1 尺度とは何か
4.1 性の存在意義	9.2 女性の性感染症	14.3 性に関する法律	19.2 性に関する行動を測定する尺度
4.2 オスとメス	9.3 予防法	14.4 現代家族と婚姻	19.3 性に関する意識を測定する尺度
4.3 性戦略と生活史	9.4 性行動と性感染	14.5 性の商品化	19.4 性に関する態度を測定する尺度
4.4 gender	III. 性を表現する	V. 性を支える	第15章 性犯罪・性被害
第5章 性差・性別	第10章 性行動と身体	15.1 性犯罪とはなにか	15.2 性被害のあいやすさ
5.1 一次性徴・二次性徴	10.1 共感・思いやり		
5.2 性的指向	10.2 恋と愛		
5.3 GID	10.3 性衝動		
5.4 ホルモン・性腺異常			
5.5 性別のレベル			
第6章 男性の身体			

その際の学問的視点は、最初に述べた学問の見取り図及び軸足を置く学問等をもとに、時にはそれらを融合するかたちで展開されていくことが望ましいだろう。つまり、今から思えば、「海図」と「羅針盤」が必要だったのは現場の実践者ではなく、わたしたち研究者のほうであったということだ。

### 次のステップ

わたしたちは、とりあえずは最初の到達点に至った。世界基準における性教育学の位置を確認し、また性教育学とは何かを共有し、さらには大学授業科目の展開に資する授業材料を開発し得た。30名を超える

全国から集まった若手研究者との協働作業のなせるわざであった。

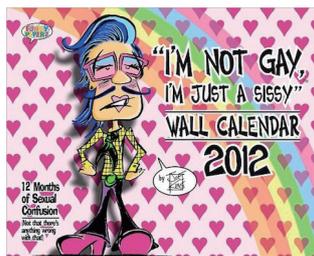
しかしながら、次の高いハードルが待ち構えていることをわたしたちは実感している。

それは性教育学という学問と、性教育という実践をつなぐ方法論である。もし大学で、性教育に関する2つ目の授業科目を設定するならば、それは間違いなく性教育学方法論となるだろう。

これには、より多くの実践者の方々と時間をかけた議論が必要だと感じているところである。是非皆様とご一緒に未来の世代に思いをはせた議論をさせていただけたらと思っている。

## 去年今年を貫く彼我の違い

年末のアメリカのゲイ・コミュニティで大きく問題になった“事件”がありました。アマゾン・コムなどで売られた新年のカレンダーに、ゲイやエイズを揶揄した商品があったからです。表紙にはいかにもな感じの男性像に「I'M NOT GAY, I'M JUST A Sissy (あたしはゲイじゃない、女々しいだけよ)」とあり、なかを覗くとジャンボジェット機の背に乗っている試験飛行の擬人化したスペースシャトルが「これって違法なんだぜ」と言ったりしています。他の月カレンダーもこの調子で、これが全米で問題になり、Amazonなどの販売者にもものすごい抗議が寄せられたのです。



結局、12月30日までにこのカレンダーはすべてのオンライン販売から姿を消しました。

対して同じころ、日本でも1つのテレビCMが問題となりました。「銀のさら」という宅配寿司チェーンの30秒CMで、男女のカップルがいい雰囲気のところ、不意に猛犬に吠え立てられ、ひるむ男性をかばって女性のほうが靴や胸パッドを投げつけて犬に挑戦するのです。それでも退かない犬に女性は最後は溜まり水で顔を洗って化粧を落とし、なんと男の姿を現してカツラを投げつけ犬を威嚇する。犬はそこでやっとなり退散。



そして「素材を見極めるチカラを」とコピーが入り「選び抜かれた素材だけ。宅配寿司は銀のさら」と寿司チェーンの宣伝となるのです。

これもお決まりのトランスジェンダー揶揄です。ツイッター上ではこのCMに関して20万件近いツイー

トが渦巻き、実際に「銀のさら」に抗議した人もいたようですが、お正月2日現在、同社のウェブサイトからそのCM(45秒版)が消え去る気配はありません。

こうした彼我の違いの極めつけはNHKの紅白でした。レディー・ガガが「Born This Way」という歌を歌ったのですが、この歌の背景はすでにこのコラムでも取り上げました。この歌詞の肝は「No matter gay, straight or bi, lesbian, transgendered life (ゲイでもストレートでもバイでも、レズビアンでもトランスジェンダーの人生でも構わない) I'm on the right track, baby (私は正しい道を進んでいる) I was born to survive (私は生き残るために生まれた)」です。ところが画面に出たこの部分の前半部の翻訳は「性的好みなんてどうでもいい」でした。

LGBTそしてストレート(異性愛)の問題を「性的好みなんてどうでもいい」と一蹴されてはガガも立つ瀬がないでしょう。どうでもよくはありません、だからこそこで敢えて歌っているのです。しかもそれは性的な趣味や好み＝「嗜好」の問題ではなく、変えようのない性的「指向」なのですよね。それを「どうでもいい」と無視するのではなく「どうであってもよいのだ」と肯定しているのです。



字幕だから字数制限があって、というのは言い訳です。「性的好みなんてどうでもいい」は4秒ほど変わらず表示されています。この一文13字に4秒は長過ぎる。つまりこの字数には十分余裕があったのです。

これは字幕翻訳者がこの歌の「肝」を理解せずに怠慢な翻訳を行ったか、あるいはゲイ、レズビアンなどの“過激”な単語をお茶の間に届けるのを避けたか、のどちらかの解釈しか成り立ちません。そしてそのどちらにしても、ガガがこの歌を日本向けに歌った意味を台無しにしたことに変わりはないのです。

# 「ありのままのわたしを生きる」ために



第10回

## 運動への目覚め

土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のMtFトランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

この原稿の締切は12月25日、どうやら編集部からいただいたクリスマスプレゼントだったようです。

ところで、わたしのクリスマスの原風景は、クリスマスカードの並ぶ飾り棚です。キリスト教史の研究者であったわたしの父親は、キリスト教以外の風習を家の中に持ち込みませんでした。そのため、盆も正月もありませんでした。そんななか、唯一華やいだ感じになるのが、クリスマスでした。この日ばかりは小さなクリスマスツリーにささやかな電飾がされていました。25日の朝にはサンタさんからのプレゼントが枕元にありました。もっとも、中身はたいがい「わたしがほしいもの」ではなく「サンタさんがあげたいもの」でしたが……。こうした家庭で育ったわたしが、やがてキリスト教と深くかかわるなかでかたちづくっていったクリスマスのイメージは、「十字架へと続くイエスの強烈な生涯のはじまりの日」でした。そんなわたしにとって、消費を促すことが目的であるかのようなクリスマスは、やっぱり違和感が残るのですが……。

閑話休題。

わたしが参加していた「反天グループ」は、数か月に一度の集会のために、毎月会議をしていました。そこで交わされている議論の内容は、お世辞にもわかりやすいものとは言えませんでした。参加している年配の人たちは、なにやら難しいことを話しては、「う〜ん」と考え込み、また何かを思いついたかのように話すことの繰り返しでした。わたしもたまに発言はするのですが、みなさんは「ん？」という感じで聞いて、「新人類だなあ」と妙な感想をもらした後、再び自分たちの論議にもどっていきました。それでも、そこで交わされた内容はとても刺激的でした。なかでも「内なる天皇制」という言葉は、今でも心の中に残っています。それまでわたしは、「運動とは『敵』と闘うもの」と考えていました。しかし、そうした「敵」を支える構造は、実は自分自身の中にあり、「敵」を撃つためには、その構造を見つめるところから出発しなくてはならないという提起は、おそらく今のわたしのものの考え方

に大きな影響を与えていると思います。

また、1980年は韓国で民主化闘争が激しく闘われた年でもありました。京都にも「韓国の民主化闘争と連帯する」運動が、さまざまな市民運動グループを横断するかたちで起こりました。こちらの運動は、どちらかという学習会中心の「反天グループ」とは違い、ピラマキやハンスト、デモなどの街頭行動が毎月のようにはありました。街頭行動は、「いかにも活動をしている」という充実感が感じられました。いつの間にか、毎月の行動には欠かさず参加するようになり、実行委員会にも出席するようになりました。街頭行動が終わると打ちあげに行き、先輩たちからかつての学生運動の話の聞くのも楽しみでした。ちなみに、打ちあげの時は、先輩たちはなけなしのお金の中からわたしたちにおごってくれました。「この金、俺に返そうと思わんでええで。おまえに後輩ができたならその後輩におごってやれ。それが俺に返すことや」と言いながら……。

先輩たちは、どうやらわたしを「次代を担う人材」と見ていたようです。当時、「おまえもたまには理論を構築しろ」とよく言われました。わたしは「理論構築ってなんやねん」と思っていたはいましたが、それでも少しずつ「話し方」を身につけたようです。ふと発言した拍子に、「おまえも論理が展開できるようになったなあ」とほめられたことを、今も覚えています。

しかしその時、自分の気持ちに妙な「ずれ」があったことを覚えています。実は、わたしが密かに「なりたいなあ」と思っていたのは、そうした「男のリーダー」ではなく、議論の外にいるにもかかわらず場所を与えられている（ように見えた）「女性」でした。もちろん、そのようなかたちでの女性の参加形態も、「そういう女性になりたい」という自分の気持ちも、フェミニズム的に間違っていることはわかっていました。ですから、そんなことは誰にも言えませんでした。そこで、そんな気持ちを「心の箱」の中にポイと放り込んで、運動を楽しむことにしました。やがてわたしは、自分の運動の場所としてキリスト教を見つけました。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### いざ、奥深いジンの世界へ

ジンとはオルタナティブな出版物、ミニコミや同人誌を指す。死体カラー写真専門のグロテスクで逸脱したもののから、ほのほのするソックモンキー（靴下でつくるサルのぬいぐるみ）愛好家のそれまで、ジャンルは多種多様。本書はその中から、つくり手を少女や女性たちに特化して論じる、米国の初の専門書。

表現されるのは、「女の子でいることの幸せ、頭にくること、不安」等。マスメディアに描かれる女性像は、消費する主体や、現実にはほとんどありえない肉体だったりする。不公平感を募らせた少女・女性たちは、自らの参加型メディアを創る行動を起こした。

17歳のための少女が、肥満をあざ笑う文化に抵抗する大デブ革命のジン。主流の母親像と異なるママ像を提示し、ジャンルとしても急成長する「ママ・ジン」現象。「『女性』の目印となる病的な美の基準には屈しないトランスジェンダーの少女と女性たちのジン」。女の子の欲望や快楽を肯定、商業化された「バスト」など。

書物の死を予言されたインターネットや電子書籍の時代だが、紙媒体であるジンの出版はますます活況を呈す。日本でも、ジンヤリトルプレスという名称で注目度は高まっている。ジンと最も類似するのは、気軽に誰でも参加可能なブログだが、実は相違点も多い。

ネット上の情報は瞬時に消える可能性があるが、紙媒体はまだしも保存性がある。ネットでは、より攻撃や誹謗中傷が起こりやすい。ジンは私信のように郵送され、親密な関係を結べ、より安心感がある。

著者は、チャールストン大学英文学准教授で、女性学、ジェンダー研究プログラムのディレクター。大学の授業でジンを取り上げると、現物を目の当たりにした生徒たちの何人かが、早速、新たにジンを創り始めるという。極めて強い伝播力がある。著者自身も、高校生時代にそ



### ガール・ジン

アリスン・ピープマイヤー著  
野中モモ訳  
太田出版  
3,675円（税込み）

れと知らずに、ジンづくりに励んだ経験をもつ。ジンを情熱的に何百冊も収集し、精読。何十人もの作者や読者たちと対話し、歴史的流れも探った。

特徴的なのは、セクシュアリティや人種などの多様性を前提にし、自己矛盾も容認する、複雑さ。主流のジェンダー規範を乱し、「ジェンダーをプレイ」する。しばしば多用される図像。侮蔑語を戦略的、創造的に使用する。性暴力や摂食障害をテーマにすることも多い。

著者は、ガール・ジンは、第3波フェミニズムと連動していると認識している。フェミニズムへの強烈なバックラッシュの洗礼を受け、自らの主張を「わたしはフェミニストではないけど、でも…」と表明しがちな世代。第3波という概念は、グローバリズムや情報テクノロジー、環境悪化が進行する、前世代とは異なる社会を生きることを踏まえてのこと。第3波の中核をなす、パンクな10代少女革命「ライオット・ガール・ムーヴメント」のgirlのスペルは、怒りのうなり声 grrrl と表記され、流行語にもなった。先鋭として時代の気分を表している。

本書を離れ、日本のジンで私にとって特に印象深いのは、天才的な言葉使い、ウーマン・リブの旗手だった田中美津のマニフェスト、その果実は『いのちの女たちへ』（河出書房新社）などで知ることができる。漫画家・エッセイストのしまおまほが現役高校生時代に創作した『女子高生ゴリコ』（コピー版から後に扶桑社より出版）一鼻毛伸び放題でデート中も「ボエ〜」と嘔吐する、ステレオタイプとかけ離れたコギャル像は、同世代を中心に熱狂的に支持された。女から男へのトランスセクシュアル、虎井まさ衛が主宰する「FTM日本」。特有の悩みを共有したり、生き延びるための戦術—男性器形成術前にズボンのふくらみを補うための疑似性器、“ペニぐるみ”の作り方や、戸籍上の性別（続柄）変更の手順が伝授されたりした。

表現の宝の山が、新たな読者やつくり手を待っている。

（フリーライター まつばらけい）



## 第12回アジア・オセアニア性科学学会



### ◆テーマ

## 「アジア・オセアニアにおける性の健康の普及増進」

**日時** 8月2日(木)～5日(日)

**日程と主なプログラム** 公用語：英語（一部日本語）

- 8月2日：登録 プレコングレス・講演（Molton Diamond）  
ワークショップ（Margaret Redelman、金子和子） 公開シンポジウム（性教育）
- 8月3日：開会式 会長講演（大会会長 大川玲子）  
シンポジウム 一般演題（口演・ポスター） 総懇親会
- 8月4日：基調講演（長谷川真理子、WAS 会長 Rosemary Coates）  
シンポジウム 一般演題（口演・ポスター） 公開講座（森岡正博）
- 8月5日：シンポジウム 閉会式

**共催** 第32回日本性科学学会・2012年度全性連第42回全国性教育研究大会

**会場** 島根県松江市 くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）

**問い合わせ** 組織委員会事務局 / TEL：080-1242-5025 E-mail：info@l2aocs.jp URL：http://www.l2aocs.jp

**2月14日(火) 13:30～17:00**

### 子ども家庭福祉研究 講演会 「子どもの健康と社会福祉」 ～安心して暮らせる社会のために～

#### 【内容】

**基調講演** 「これからの思春期・学校保健の課題—健康教育の立場から—」(衛藤隆・日本子ども家庭総合研究所副所長兼母子保健研究部長)

#### 研究発表

「子どもの食の支援に関する調査研究」(堤ちはる・日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部栄養担当部長)、「食を通して支え合うコミュニティづくりに関する研究」(野村知子・桜美林大学教授)、ほか。

**【会場】** 日本子ども家庭総合研究所4階研修室  
東京都港区南麻布5-6-8（地下鉄日比谷線広尾駅）

#### 【問い合わせ先等】

参加費／入場無料。  
申込方法／はがき・FAXまたはE-mailにて、住所、氏名、職業および電話番号を明記のうえ「社会福祉法人恩賜財団母子愛育会事業管理部」まで。  
〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8  
FAX：03-3473-8300 TEL：03-3473-8301  
E-mail kanri@aiiku.or.jp

### ティーンズカフェ

～女の子のための、からだと心の相談室～

気になること、心配なこと…  
だれにも言えないで悩んでいることがあったら  
ひとりで悩まないで  
ティーンズカフェに来て相談してみませんか？  
相談は無料  
ティーンズカフェは、あなたの味方です。

#### 場所

主婦会館プラザエフ 4F カウンセリング室  
(東京都千代田区六番町15番地)

#### 主催

財団法人 主婦会館

#### 相談日

毎週木曜日 9:00～19:30（完全予約制）

#### 予約

電話予約 03-3265-8119（電話での相談はしていません）  
受付時間 平日 10:00～17:00  
E-mail予約 info@plaza-f.or.jp